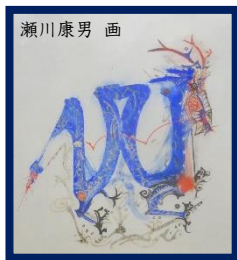




# 千曲川右岸の上田民話

塩田平民話研究所 所長 稲垣 勇一



瀬川康男 画

今年度の私たちの学習対象を千曲川右岸の上田地方民話（主に真田地域）に焦点化した。長い間気にかけてながら、取り組みを延ばし延ばししていた地域だ。真田地域の民話を対象とすると、その中心的軸の一つは、当然神川に関する白山信仰とその周辺の物語である。

日本の国土の四分の三は丘陵と山岳地帯だといわれている。そこには、水源と祖霊への畏怖と敬意を基本とした、古く縄文時代から連綿と続く、重層的祈りの継続によって形成された山岳信仰がある。それはそれぞれ

の山岳の特殊性に対応して多様であり、信仰の質も、仏教・神道・道教・修験道等が複雑に混淆して、安易な理解を拒むところがある。そうしたものの一つとして白山信仰がある。

私たちの力が、その山岳信仰や白山信仰にどれだけ迫り、そこに伝承された民話の奥深くまで迫り着き、イメージ豊かに語ることができるか。その前に立つて不安は大きい。けれどもそれは何時かしなければならぬことであり、ぐずぐず先延ばししていても仕方がない。大方の教えを戴き、まず第一歩を踏み出したい。

千曲川右岸の民話には、白山信仰関連民話の外に、まだ幾つかの特色がある。それは千曲川


左岸の民話と比較することで、はつきりと見えてくる。

例えば、角間集落を中心に伝承されている「天狗伝説」である。天狗は人の暮らしの領域外の山に住む異界のものである。その行状や性質は神道系の神に近いと見る者もいるが、神よりはるかに人の暮らしの近くにいて、その関わりも深い。人間の子どもに甘いことも含め、より親しみ深い存在として語られる。白山信仰由来の神川命名伝説とともに、神道系の伝説として括ることができ。

信仰系伝説で千曲川右岸・左岸を比較すると、左岸には山岳信仰・天狗の伝説は見当たらない。その一方、左岸には仏教系統の「高僧伝説」が青木村を含めていくつか伝承されている。けれども、真田地域に今のところそれは見えない。

真田にはいい狐の話がいくつもある。狐は里山に徘徊する獣。これらから右岸を「山地神道系民話地域」と捉えて学習したい。


第 27 便  
2024.2.1  
塩田平民話研究所  
〔事務局〕  
長野県小県郡  
青木村大字当郷  
2072 番地 2  
☎0268-49-1231  
✉shiodadaira.minwaken@outlook.jp  
http://www.shiodadaira.minwaken.net

**木霊**

本読みに伺う小学校からは岩鼻がよく見える。上田市民になじみの風景には「昔、半過の岩鼻と塩尻はつながっていた、上田は大きな

湖だった。鼠がかみ砕いて現在のようない地形になった」という民話がある▼この民話を題材に地域の方と協働し一年かけて次世代に残せるパネルシアターを制作した。原画は全校児童に猫と鼠のイラストを公募し応募者全員のイラストを採用。色塗りは中学生と行った。何回も台本を練り直し、鼠が岩をかみ砕くクライマックスは、古戦場太鼓の皆さんに演奏を依頼した▼完成作品の上演場所は小学校内の歴史資料館の囲炉裏端。児童と保護者、地域の方と楽しんだ。見慣れた風景にまつわる民話をはじめ知った、という感想が聞かれた。歴史資料館、上田原古戦場太鼓、本読みサークルなどボランティアのコーラボレーションは民話の伝承のひとつの形になった▼この活動の要となったのは「民話」である。民話は、異世代間の交流のきっかけであり、人と人をつなげる力があるとあらためて感じた。



(寛恵)

# 第2回「民話語りっこ学びっこ」開催

20年継続してきた年一回の民話発表会だが、一区切りついたらとこで次の方向の模索にコロナが重なり、2年間は発表会を休んだ。その間に更に方向性を議論し、無観客動員撮影にもトライしたが、昨年には内容を凝縮した「民話語りっこ学びっこ」開催にこぎつけた。その経験も踏まえ、11月5日に川西公民館で、半日プログラムでの第2回が開催できた。年初より学習を重ねてきた「白山信仰」をテーマにした稲垣所長の講演（事務局長のガイド付）を受け、その後の語りへと展開した。

長年交流のある群馬県の「六合の文化を守る会」、「民話塾スマイルキッズたんぼぼ」メンバーの他、「塩田平民話研究所」所員による語りが披露され、民話尽くしの充実したひと時となった。民話のエッセンスをギュッと詰め込んだ上、地元の皆さんをはじめ参加者の応援をいただき、最後の交流会まで充実し盛会となった。参加者は55人へのぼった。これをご縁に、川西地区でも更に広めていきたい。

(きなこ)

## 学習講演会「白山信仰 山岳信仰と関わりの中で」

講師 稲垣勇一 所長

上田小県地方における民話の分布を見ると、千曲川を挟んだ右岸と左岸では大きな違いがみられる。右岸には、真田地区を中心に『白山様』など白山信仰に纏わる民話、天狗や狐に纏わる民話が多く残る。一方、左岸にはこうした話がなく、西行法師や弘法大師に纏わる高僧伝説が多く残る。そこで、右岸を「山地伝道文化圏」、左岸を「平地仏教文化圏」と呼ぶことにしたい。

民話は、そこで暮らす人々の暮らしや文化と密接に結びついていく。千曲川右岸に暮らす人々は、山岳と平地との境界である山地で修行する修験者や、そこに生きる動物たちと交流する。また、鉄を扱う技術者や芸能者のように境界に暮らす人々との交流もあった。こうした人々は、平地に暮らす農民にとって畏怖の対象であり、同時に差別される対象でもあった。白山信仰は、白山姫が腐れ病であったと語られるように、差別された人々との結びつき

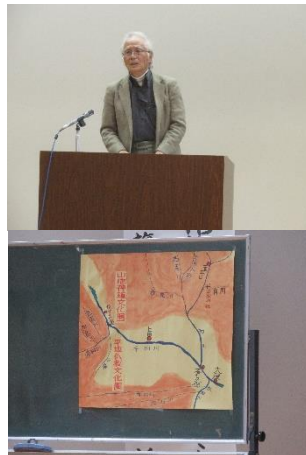


## 民話語り



「『白山・山岳』信仰と民話」千曲川右岸を中心に」とした今回のテーマに寄せ、真田地域に伝わる白山信仰をモチーフにした民話『石舟と白山姫』、天狗ばなし『角間の天狗』、狐ばなし『山遠家の狐』のほか、山岳信仰に由来する『はなたれ小僧さま』の4話

を塩田平民話研究所々員が語った。由来譚にドラマ性を盛り込むことが課題だ。昨年引き続き群馬県中之条町から駆けつけてくれた六合の文化を守る会からは、『半右エ門の泉』『夢見こぞう』の2話を語っていただき、民話塾スマイルキッズたんぼぼの受講生からは「かっこう鳥」が披露され、参加者から感嘆の声が上がった。小学校5年生から90歳代まで、昔ばなしは老若男女を問わず、語り、楽しむことができる。



も深い。そうした点も、今後さらに追究してみたい。秋田に伝わる民話「坊さまの木」は、差別される側にあつた座頭坊さまが、亡くなってもなお差別する側の人々に喜びをもたらす物語であり、差別される側の者の限らない優しさを感じる。(弘子)



# ふるさとの 23 民話探訪 角間の天狗

## 交流会

語りの終わった後の交流会は、どうしても時間が遅くなってしまう。それでも、12人が集まり、日頃の生活で感じていることと民話との繋がりや、それぞれの場所での活動の様子などを交流し合うことができた。

一昨年亡くなった民話研究所のメンバー佐藤悦子さんの弟さんが友の会員になってくださり、最後までお付き合いいただいたことも嬉しいことだった。

真田交差点を右折し、さらに山の奥へと進んでゆくと、川の流れて沿って、息をのむような角間溪谷の断崖絶壁が、4kmにも渡ってそびえ立っています。高い断崖を見上げていると、いかにも天狗が潜んでいそうだなあと感じられます。昔の人もそう思ったのでしょうか。角間溪谷には、天狗にまつわ

## 参加者のみなさんの感想

○民話の背景にある深い歴史に驚きました。長い時代を語り継ぐ民衆のエネルギー、ものすごいです。

○長い歴史の中で、地形・信仰・人々の暮らし等により、そこで生活する人たちの礎ができてくるということが良くわかりました。

○10才の女の子の語りは夫がとても感動したらしく、横を見たら目がウルウルしていました。

○どの語りもすばらしく、聞きほれました。

る民話がいくつも伝えられています。

「角間の天狗」は、そんな民話のひとつです。ある夜、いつまでも泣き止まない男の子が外に出され、天狗にさらわれてしまった。村じゅう大騒ぎになって探したけれども見つからない。ところが翌朝、男の子は饅頭をかかえて戸口に立っていた。天狗が男の子をおぶってどこかに連れてゆき、饅頭を食わせてやって、朝になると家まで送ってくれたという民話です。

そんな土地柄もあって、角間の



子どもたちは夜に泣いていると「天狗にさらわれちゃうぞ」と言われて育ってきたそうです。また、むかし角間には饅頭屋があった、その饅頭は天狗に作り方を教えてもらったと伝えられています。

角間の民話の中の天狗は、饅頭を食わせてくれたり、お灸のやり方を教えてくれたりして村の人を助けてくれる話がある一方、天狗の悪口を言った若者が、祟りで死んでしまったという話もあります。

また余談ですが、角間溪谷は猿飛佐助が溪谷の大岩を猿のごとく飛び移って修行した地と言われています。

(陽子)

## 産川

松本市出身の山崎貴監督作品「ゴジラ・マインクスワン」が全世界で快進撃を続けているという。岡谷市でもロケが行われている

▼戦後の混乱から立ち直り始めた東京にゴジラが顕れ、壊滅的な状況に陥る。日本政府も米軍も立ち上がったのは民間の人々だった▼モンスターパニックのエンターテイメントも取り入れながら、登場人物を取り巻く社会背景、人間ドラマがしっかり描かれている▼この作品に伴って、第一作の「ゴジラ」も注目されている。特殊技術を担当した円谷英二はテレビのウルトラマンシリーズを手がけている。脚本家の金城哲夫は沖縄出身で、子ども向けの番組でありながら沖縄の葛藤を作品の中に盛り込んだ▼ただのパニック映画で終わらせない気概を山崎監督も受け継いだのではないか。4月に公開される米国版ゴジラに、山崎監督作品は大きなプレッシャーを与えているという。今後の山崎監督作品にも大いに期待したい。

(和枝)



# 民話とわたし Ⅲ

― 幸せ民話タイム ―

民話塾スマイルキッズたんぼぼ受講生母 土屋 みき子

娘は小学校1年生の時から、民話塾スマイルキッズたんぼぼで活動させて頂いて、現在は5年生になりました。講師の稲垣先生は、取り組む民話一話一話をとっても丁寧にご指導してください、子どもが自ら考える登場人物の姿や気持ちなどを尊重して一緒に考えてくださり、楽しんで民話の世界に入り込んでいます。何度か語りの会に参加させて頂いて、今では、自分らしい語りが、だんだん出来てきているようです。

また私自身も、民話の奥深さに魅了されています。同じ民話でも語り手によって、印象は随分変わります。語る方の思いが言葉一つ一つに伝わってこちらに届き、心を揺さぶられます。民話は口承文芸ですが、娘がまだ字が読めない頃に、絵本を「もつともつ」と言われて読み、いつの間にかすべて暗唱していた娘の笑顔。そんな懐かしい光景を思い出さず民話タイムを、これからも大切にしたいです。

## 昔ばなしに寄せる願い

聖ミカエル保育園 園長 江夏 一彰

保育園での語りの会をお願いして、長い年月が流れています。子ども達はこの時間をとても楽しみにしています。朝から語りの会の方がいつ来るのかと待ちわびています。いざ、語りの会が始まると目を輝かせて耳を澄ましています。

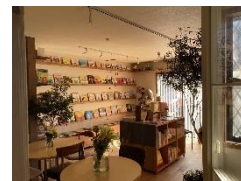
言、つまり自分の今までの歩みを通して人生をも語っているのではないか、といつも拝聴していてもそう感じておられません。若い頃は静けさが怖くて間を挟むことに抵抗を感じたもの



## ほこりニュース

### コネコノヒタイ

研究所友の会員の丹崎万記子さんが、自宅を改装して絵本児童書専門の本屋さんをオープンしました。その名も



「コネコノヒタイ」。子育ての時から絵本の虜になったという丹崎さん。地域のコミュニティになる場所を作りたかったとのこと。コーヒーも飲めるくつろぎ空間です。今後お話会なども計画中。川越市ですが、ホームページを確認して、ぜひお出かけください。(恵美子)

ですが、年を重ねるにつれて、間を楽しむことが出来る気がいたします。子どもたちにも、自分の言葉で語れる、自分の体の一部として語れる一人ひとりの味を付けたがら語れる大人になって欲しいという思いを抱きつつ、この語りの会を今後とも大事に大切にしていきたいと思います。語りの間という余白を楽しめる大人になるということを願っています。

## 編集後記

元旦の午後4時10分、家がゆさゆさと揺れ、収まるまでに相当な時間を要した。震度4。東日本大地震が彷彿される。震源地は能登半島。震度7を観測した珠洲・輪島の被害が甚大だ。津波と火災が追い打ちをかけた。被災者の悲痛な叫び、とりわけ家族を失った者の嘆きに心を掻きむしられる。思い立って能登の民話を読んだ。笑える話が多い。北陸の厳しい気候を笑いで吹き飛ばしていたのではないか。生活の見通しの立たない被災者に、民話がいかにばかりかの力を注ぎ込んでほしい▼A新聞の元旦号に、塩田平民話研究所に関する記事が掲載された。辰年に因み、松谷みよ子さんの創作民話『龍の子太郎』の源流を訪ねている。母が龍の「泉小太郎」と、大蛇の「小泉小太郎」、両方の地を取材したものだ。タイトルは「民衆の願い 民話にのせ」。記者は、塩田平民話研究所のホームページからアクセスしてくれた▼



暮れから、金権腐敗の政治にメスが入れられている。悪代官が成敗されるのは、民話の掟だ。政党助成金も企業献金も、この際きつぱりやめるべきだ。震災に乗じて有耶無耶にさせてはならない。(弘)